

(患者様向け) 2022 年度診療報酬改定の紹介

2022/3/29 京都府立医科大学 分子標的予防医学 石川秀樹

令和 4 年度 (2022 年 4 月 1 日) からの診療報酬改定において、下記のように家族性大腸腺腫症に係る改定がいくつかありましたのでご紹介致します。

家族性大腸腺腫症患者に対する積極的大腸ポリープ切除術 (IDP: INTENSIVE DOWNSTAGING POLYPECTOMY) に対して、下記のように年に 1 回 5,000 点加算が認められました。

【Ⅲ-1 患者にとって安心・安全に医療を受けられるための体制の評価や医薬品の安定供給の確保等-⑦】

⑦ 家族性大腸腺腫症の適切な治療の推進

第 1 基本的な考え方

家族性大腸腺腫症の適切な治療の提供に係る評価を推進する観点から、内視鏡手術を行った場合について新たな評価を行う。

第 2 具体的な内容

消化管ポリポーシスのうち、家族性大腸腺腫症については、放置するとほぼ確実に大腸がんを発症することを踏まえ、内視鏡により大腸ポリープを徹底的に摘除した場合の評価を新設する。

改定案	現行
【内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術】 [算定要件] 注 家族性大腸腺腫症の患者に対して実施した場合は、消化管ポリポーシス加算として、年 1 回に限り 5,000 点を所定点数に加算する。	【内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術】 [算定要件] (新設)

これまで 20 歳頃に大腸を全摘するしか大腸癌の予防法がなかった家族性大腸腺腫症 (FAP) において、内視鏡的にポリープを積極的に摘除する治療法 (IDP: INTENSIVE DOWNSTAGING POLYPECTOMY) が今回の改定で認められました。これまで、大腸切除を希望されない FAP 患者さんに対して、大腸内視鏡検査を専門としている施設において、研究的な治療として、大腸ポリープを内視鏡的に摘除する研究的治療をしてきましたが、今回の診療報酬改定により、本治療法の技術をもつ施設では実臨床として IDP を受けることができることになりました。ただ、1 回の大腸内視鏡検査で極めて多数のポリープを摘除

する治療は、リスクも高く、高度な技術も必要なため、まだ、どこの施設でも実施可能とはなっていません。この治療法を多く経験している施設で治療をされることをお勧め致します。本治療を行っている施設が分からない患者さんは、石川までご連絡ください。施設を紹介致します。

京都府立医科大学 分子標的癌予防医学 大阪研究室

石川秀樹

〒541-0043 大阪市中央区高麗橋 3-1-14 山本ビル 6F

電話：06-6202-5444 FAX：06-6202-5445

E-mail：cancer@gol.com

今回の診療報酬改定により、大腸内視鏡検査による大腸ポリープ切除治療の点数が高くなりますので、これまでより自己負担が増えます。施設の規模などによって多少、金額は異なりますが、1回の大腸内視鏡治療時に自己負担3割では15,000円程度高くなります。なお、この増額は、年に1回のみです。

本治療法が公的に一つの治療法として認められ、患者さん達の治療法に複数の選択肢ができたことは、とても喜ばしいことですが、患者さんの自己負担額が増えることになりました。しかし、1個のポリープを摘除しても、時間をかけて多数のポリープを摘除しても、同じ費用であれば、増えた手間の費用は医療機関からの持ち出しとなってしまう、通常診療として永続的に本治療をすることは困難です。これからも本治療を希望される患者さんが、永続的にこの治療を受けることができるようにするため、負担が増えることについてご理解頂けましたら幸いです。

FAPは、ご家族の中で複数の方がこの病気になることもあり、とても負担の多い疾患です。公的な金銭的支援が得られるように国に働きかけており、現在、18歳までに診断のされたFAP患者さんは、小児慢性特定疾患の申請をすれば20歳まで公的支援を受けることができます。ただ、20歳以降は本疾患への公的支援はありません。

日本には、高額医療制度があります。この制度を適切に利用することにより、少しでも患者さんの負担を減らす工夫ができればと考えています。これからも国に本疾患に対する公的な支援を増やしてもらえるように、いろいろ活動をしていきたいと考えています。

なお、本治療を行う場合でも、下記のような生活を心がけることにより、大腸ポリープの増大をなるべく抑制してほしいです。

- ・禁煙（タバコは絶対に吸わないでください）
- ・飲酒するならば適度な飲酒を心がける（1日男性1合、女性半合まで）
- ・適度に野菜、穀物を摂取する
- ・牛肉、加工肉（ハム、ソーセージなど）は控えめに、鳥、魚主体の食事を
- ・適度に運動する

これらの生活を心がけながら、通院、加療されるようにしてください。